

兼松セミナー（日本近代経済・経営史セミナー共催）

神戸大学経済経営研究所

新館 2 階会議室 9 月 9 日（月）午後 1 時 30 分から

司会 簗原俊洋 神戸大学法学部教授

発表者

1) 甲南大学 平井 健介 講師 1:30-2:40

「製糖会社農事主任会議」の開催－1910 年代の台湾における殖産政策－

討論者：研究所 藤村 聡准教授

本報告は、日本植民地の「開発」における政策の役割および効果を議論するため、台湾の最重要産業であった製糖業を取り上げ、1910 年代に台湾総督府が開催した「製糖会社農事主任会議」の展開過程を考察する。

2) 立命館大学 石川亮太 准教授 2:50-4:00

「朝鮮開港後における華商の活動－日系金融機関との関係を中心に－」

討論者：研究所 高槻泰郎准教授

本報告では朝鮮開港場で活動した広東系華僑商店「同順泰」の経営資料を利用し、19 世紀末から 20 世紀初にかけての彼らの貿易活動について、同時期に朝鮮に進出した日系金融機関との関係に注目しながら論じる。

3) 台北大学 蔡 龍保 副教授 4:10-5:20

「植民地期の台湾鉄道史研究から企業史（鹿島組）研究へ」

討論者：神戸大学大学院人文学研究科 兒玉州平助教

日本統治時代の台湾史研究における「土木史」はこれまで比較的着手されていない研究テーマであり、その中に産官連携といった微妙な関係にかかわっており、植民地台湾の統治運用上における産業と官僚二者の関係を解明することで、「植民地経営」について補足できる。代表的な土木請負会社に着手し、その会社経営、日本の技術（技術者）や資本の海外拡張について考察することで、「日本近代史」、「企業経営史」と「日本統治時代の台湾史」を関連付け、さらに大きな視点から研究を進めていくことが可能となる。

懇親会 愛蓮（中華料理）夕方 6:00－（参加希望者は事務局までメール連絡をお願いします）